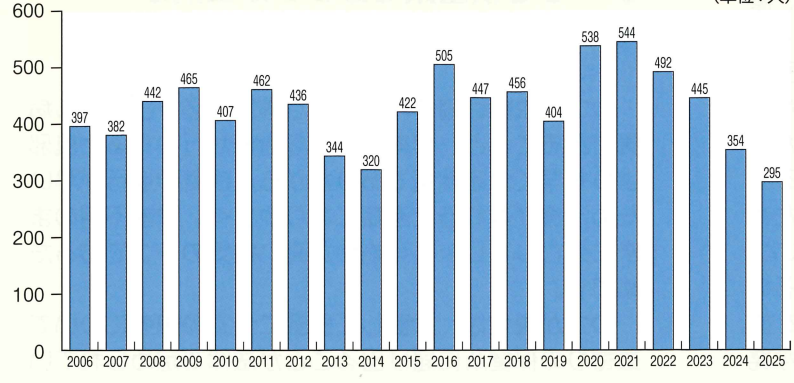
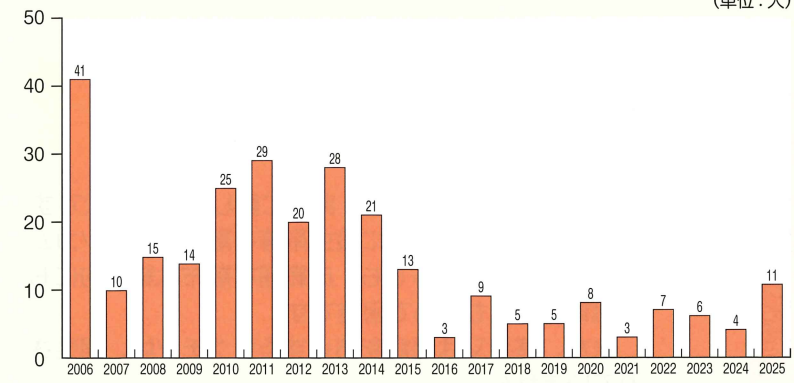


つつが虫病のしおり

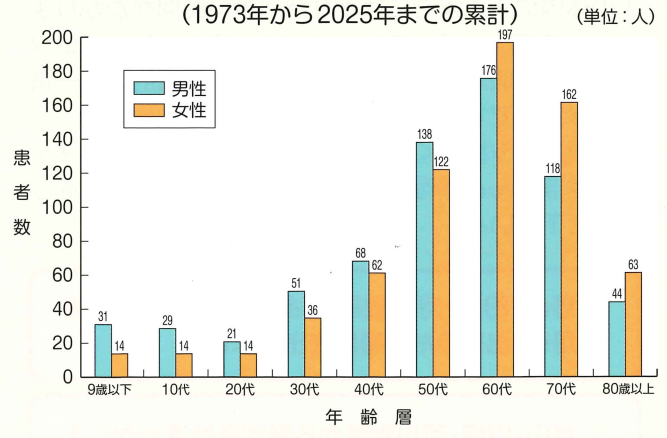
全国のつつが虫病患者届出数の推移 (2006年以降)
(単位: 人)



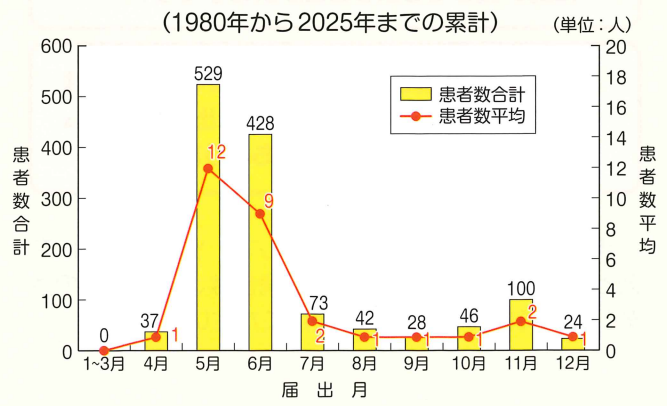
秋田県のつつが虫病患者届出数の推移 (2006年以降)
(単位: 人)



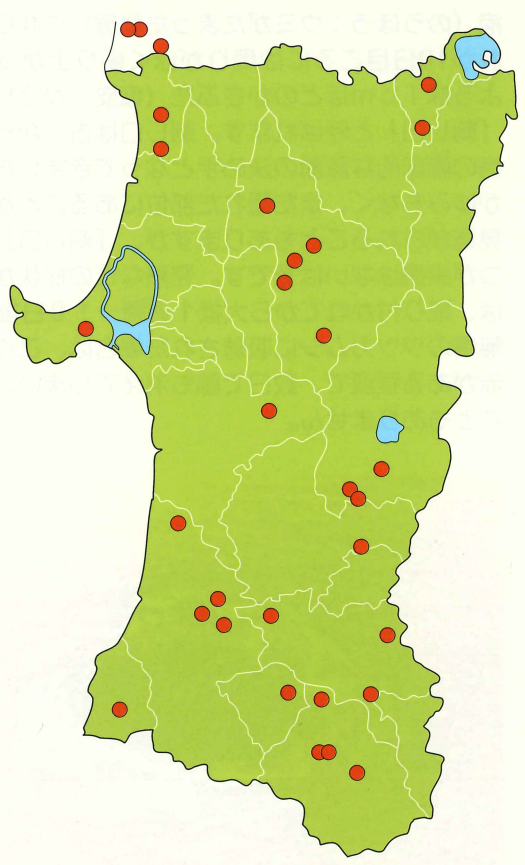
秋田県のつつが虫病患者の年齢分布
(1973年から2025年までの累計) (単位: 人)



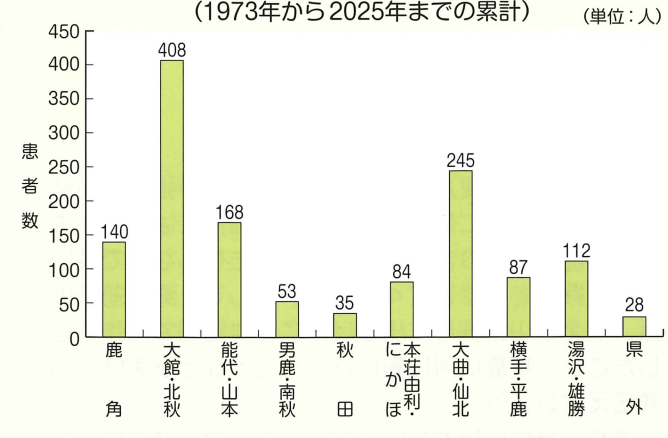
秋田県のつつが虫病患者の月別届出数
(1980年から2025年までの累計) (単位: 人)



つつが虫病患者の居住地
(過去5年間: 2021年~2025年)



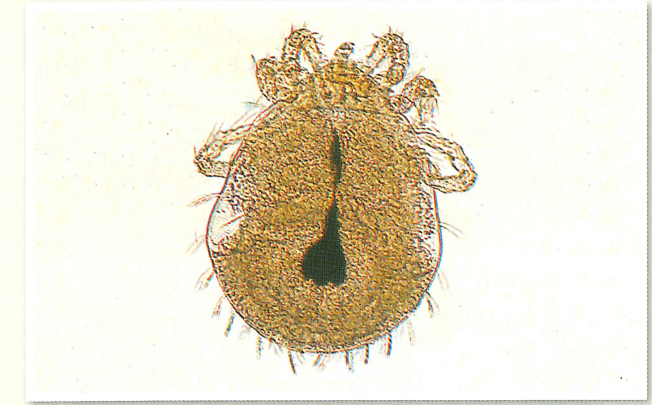
秋田県のつつが虫病患者の居住地区
(1973年から2025年までの累計) (単位: 人)



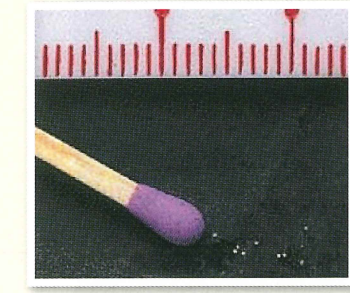
秋田県のつつが虫病患者の感染要因
(1973年から2025年までの累計) (単位: 人)

要因	河川敷等 (花火見物 魚釣り等)	田畑 (農作業等)	山林 (山菜採り等)	土木作業	不明 その他	計
1・2・3月	0	0	0	0	0	0
4・5・6月	30	394	364	18	197	1,003
7・8・9月	56	57	36	3	25	177
10・11・12月	3	62	54	10	51	180
計	89	513	454	31	273	1,360

作成／秋田県健康福祉部保健・疾病対策課
秋田県健康環境センター
写真提供／秋田大学名誉教授 須藤 恒久



▲ツツガムシの幼虫



◀ツツガムシの大きさ

新緑の頃やお盆過ぎ、更に晩秋には「つつが虫病」への注意が必要です。
昔から知られた怖い病気のようにですが、どんな病気なのでしょうか。かからないようにする方法や、早く治す秘訣はないのでしょうか。

つつが虫病とはどんな病気ですか？

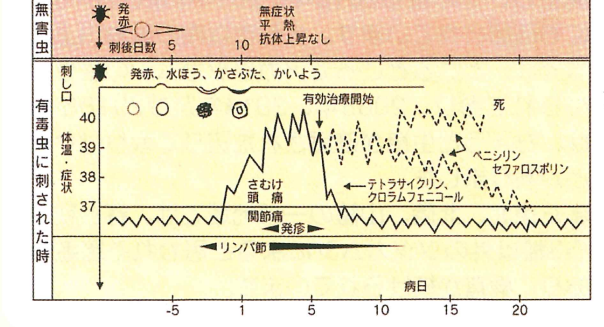
つつが虫病は、「オリエンティア・ツツガムシ (つつが虫病リケッチア)」という病原体を生まれながらに持っている特別なツツガムシの幼虫に吸着され、人の体内にその病原体が入ったときにだけ発病する感染症です。

つつが虫の初めの症状は、ひどい風邪とよく似ています。まず身体がだるく食欲がなくなり、次いで、ひどい頭痛や寒気とともに38℃から40℃もの高熱が出てきます。4、5日目になると胸や背中から腹部にかけて赤褐色の直径2～3mmの発しんが現れ、その後、腕や顔にも増えていきます。この頃までに適切な治療を受けると、たちまち熱が下がり、時には風邪よりも早く治ります。

しかし、治療が遅れたり適切でなかったときはなかなか熱が下がらず、全身の内臓機能が侵され重い脳炎のような症状が起こり、治るまでに数か月の入院が必要となったり死亡してしまうこともあります。

2024年には県内医療機関から約5年ぶりに亡くなった方の報告があり、昔から言われてきたとおり今でもつつが虫病は怖い病気の一つなのです。

つつが虫の症状と経過図



つつが虫病は真夏にかかる秋田、新潟、山形各県の一部地域だけの病気と誤解されていた時代もありました。しかし、今は秋田県内全域 (4ページ図)、日本全国各地から例年多くの患者報告があり、2025年は1年間で全国36都府県から295名の患者が確認されています (2026年3月21日時点)。国外でも西アジア、極東ロシア、オーストラリア北部を結ぶ地域を中心に広く発生しています。

季節的には、東北地方では主に新緑の頃と晩秋に、関東から九州にかけては主に晩秋に患者が多く出ていますが、これは生息するツツガムシの種類と活動季節に違いがあるからです。

ツツガムシとはどんな虫ですか？

ツツガムシは非常に小さなダニの一種で、日本には130種類以上のツツガムシが生息しています。この中で、病原体を持つことと人に吸着する性質を併せ持っているのは、主に次の3種類です。

- ①アカツツガムシ
雄物川沿いで真夏に発生するつつが虫病の原因となる。昔から恐れられた有名な種類で、ケダニとも呼ばれている。
- ②フトゲツツガムシ
全国的に春と秋に発生しているつつが虫病の原因となる。
- ③タテツツガムシ
東北中部以南～九州で秋に発生しているつつが虫病の原因となる。

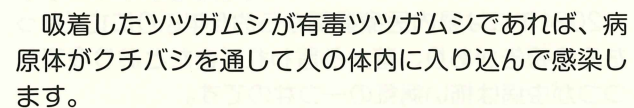
しかし、この3種類のツツガムシの全てが病原体を持っているわけではなく、ごく一部が生まれながらに病原体を持っているに過ぎません。しかも、病原体はメスからメスへ伝えられ、その一族が生息するごく狭い範囲だけが危険地域になりますが、あらかじめそこをつきとめることは、ほとんどできません。

また東北、北陸、山陰の一部地域では、春と秋にこれら3種以外のツツガムシによると思われる患者も出ており、調査が続けられています。

ヒトがつつつが虫病にかかるのは、親譲りの病原体を持っていて、しかも、何らかの理由でネズミなどに吸着できなかった幼虫に運悪く吸着されたときだけです。ネズミはツツガムシの成長に必要な生き物ですが、病原体を増やしたり、うつしたりする役割はなく、むしろ人の身代わりともいえます。

秋田県内のつつが虫病の主な原因となるフトゲツツガムシは、夏に産卵します。その卵は秋にふ化して幼虫になりますので、吸着されてつつが虫病にかかることがあります。しかし、幼虫は気温が10℃以下になると活動できなくなるため、未吸着の幼虫はそのまま土の中で冬を越します。そして、春になり気温が10℃以上になるとようやく吸着活動を再開しますので、春

一方、アカツツガムシは真夏に幼虫が生まれます。近年は絶滅したように思われていましたが、2009年の夏に、大仙市角間川や運動公園付近の兩岸河川敷に群がっているのが確認されました。真夏の河川敷に立ち入るときは、よく気をつける必要があります。



また、つつが虫病と似た症状の病気もありますので、確実に診断するには血液による検査が必要です。秋田県では、県健康環境センターが血液中のつつが虫病リケッチアに対する抗体を調べる検査を県内どの医療機関からでも無料で受け付けており、検査結果を速やかに直接医療機関に伝える体制を整えています。

ツツガムシはごく小さく、肉眼で見つけて取り除くことはほとんど不可能ですので、次のようなことを心がけて下さい。

- また、これらの対策の補助として、ツツガムシに有効とされる虫除け剤を使用する場合は、「使用上の注意」をよく読んで正しくご使用ください。